

特別ゲストプロフィール



大山大輔 氏 Daisuke Ohyama バリトン歌手

東京藝術大学首席卒業。同大学院修士課程オペラ科修了。兵庫芸文センター《メリー・ウドウ》ダニロ役にて鮮烈なデビューを飾って以降、多くのオペラで活躍。特に“井上道義 × 野田秀樹”による《フィガロの結婚》フィガロや、手塚治虫原作・宮川彬良作曲 歌劇《ブラック・ジャック》タイトルロール、異彩を放つシアターピース、バーンスタイン《ミサ》でのセレブラント等、独自性の強い作品での主役として圧倒的な存在感を示している。また古楽や宗教曲においてもコンサートソリストを務める他、役者として演劇作品にも多数出演。劇団四季ミュージカル《オペラ座の怪人》ではタイトルロールとして客演するなど幅広い活躍を見せており、その多彩な経験と独自の表現力から、台本執筆、MC・ナレーション、歌唱・演技指導にも定評がある。洗足学園音楽大学ミュージカル・声楽コース講師。



小関佳宏 氏 Yoshihiro Koseki クラシックギター奏者 作・編曲家

クラシックギターを佐藤滋氏、永島志基氏、作曲を佐藤弘和氏、ジャズ・ポピュラー理論を稲垣達也氏に師事。クラシックギターの独奏を基本とし、ヴァイオリンやピアノ、チェロなどの様々な楽器や、声楽家、朗読家と共演。国内はもとよりアメリカ、ポルトガル、フランス、香港で演奏を行ってきた。映画や舞台の作曲を手掛ける他、これまでに9枚のアルバムをリリース。編曲家としても高く評価を受け、村治佳織をはじめ多くのギタリストに作・編曲作品を提供している。また「月刊現代ギター」誌上にて、コラムとギター独奏用の編曲楽譜の連載を担当するほか、「ギターソロ曲集・久石譲」（出版元：現代ギター社）他、編曲を担当した楽譜も多数出版されている。クラシックギターの可能性を追求すると共に、その魅力を発信し続けている。日本ギタリスト協会会員。日本ギター合奏連盟常任理事。東北福祉大学クラシックギター部講師。Wonder World Works 代表。

朗読者 作品紹介

春日李心

朗読会に初めての参加となる小学三年生。朗読するのは、当時6歳の女の子が綴った詩「[し]と尾形亀之助「今日は針の気げんがわるい」の二作品。日常を切り取った風景が浮かぶ子どもの声に癒されたい。

二階堂恵子

雄勝町名振出身、仙台在住。子供たちへの読み聞かせの経験をもつ。ひとつひとつの言葉が紡がれるような温かい語り口は、多くの人を物語の世界に引き込んでいく。今回は、与謝野晶子の作品とフランスの詩人アルチュール・ランボーの作品を朗読する。

徳水辰博

雄勝硯生産販売協同組合勤務。4年振りの参加となる今回は、約130年前の作品、北村透谷の「露のいのち」と他一作品を朗読。印象に残る徳水氏の声 が作品をより引き立てる。

山下照夫

朗読会初参加となる、今回最年長の朗読者。関口篤「われわれのいがい義務」、平戸廉吉「一生」の二作品を朗読。何十年も前に書き残された言葉が山下氏の語り口で生きてくる。重なり合い醸し出される、特別な空気感に注目したい。